飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第1次～（案）についての地域協議会意見聴取結果

○地域協議会への意見聴取について

令和6年5月30日付けで、飯田市内20地区全ての地域協議会に対して「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第1次～（案）」についての意見聴取を行いました。

○飯田市地域自治区の設置等に関する条例（抜粋）
（地域協議会の権限）

第10条 地域協議会は、次に掲げる事項のうち、市長その他の市の機関により諮問されたもの又は必要と認めるものについて、審議し、市長その他の市の機関に意見を述べることができる。

- (1) 地域自治区の事務所が所掌する事務に関する事項
- (2) 前号に掲げるもののほか、市が処理する地域自治区の区域に係る事務に関する事項
- (3) 市の事務処理に当たっての地域自治区の区域内に住所を有する者との連携の強化に関する事項

2 市長は、次に掲げる市の施策に関する重要な事項であつて、地域自治区の区域に係るものを決定し、又は変更しようとする場合においては、あらかじめ地域協議会の意見を聴かなければならない。

- (1) 区域内の公の施設の設置又は廃止に関する事項
- (2) **区域内の公の施設の管理のあり方に関する事項**
- (3) 市が策定する基本構想その他これに準ずる重要な計画に関する事項

3 市長その他の市の機関は、前2項の意見を勘案し、必要があると認めるときは、適切な措置を講じなければならない。

地区名	意見
橋北	第1次（案）について意見なし。第2次方針策定に向けては、地域や保護者と十分な意見交換を行った上での策定をお願いする。
橋南	意見なし。
羽場	第1次方針においては、方針案を市民へ広く周知をするとともに、地域や保護者との意見交換を密に対応され、決定されたい。
丸山	第1次（案）について意見なし。 第2次方針策定に向けては、保護者や地域と十分な意見交換等を行った上での策定をお願いする。
東野	・保護者やPTAなどへ十分な説明をいただき、意見をきちんと聞いていただきたい。 ・資料6ページ、形態の小学部欄、学校名のカッコは外していただきたい。

地区名	意見
座光寺	異議なし
松尾	学園構想を推進する上での、「専門部署の設置」と「各学園に対し公民館主事の設置」を検討されたい。
下久堅	案のとおり承認するが、付帯意見として以下4つの意見を付す。 1 小中連携・一貫教育の取組により中1ギャップによる不登校生徒の減少、学力の向上の傾向がみられると判断した根拠となる数値データ、事例を示すこと。 2 10年後以降の施設改修・児童生徒数の減少を見据えた学園構想について、その方向性を明確に示した上でスピード感をもって策定を進めること。 3 小中一貫教育において、児童生徒の考える力・課題を見出し解決する力を養う取組を進めること。 4 「学園構想」について、9つの学園がそれぞれ地域の特色を生かした魅力のある構想を策定できるようにすること。
上久堅	これまでに、学校、家庭、地域が一体となって取り組んできた、特色ある教育活動の実績を踏まえ「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第1次～」を基に小学校中学校が一体となり、飯田コミュニティースクールとして地域・家庭も協働し子供たちの学びを支え、生き方教育でもある飯田キャリア教育を特色に捉えた教育を進める事に賛成であるが下記の意見を付帯する。 今後第2次方針、第3次方針と小中一貫教育を進めるなかで、小学校中学校の交流の機会は、現在より多く必要と思われる。また方針を進めるにあたり、保護者・地域・教職員の理解を深めるために具体的な内容の説明が今後同時に必要と思われる。 中山間地域である竜東中学校区については、児童生徒数の減少が他の地区に比べても著しく、子供たちにとってより良い学びの環境をつくるのが難しくなっていくような状況が急速に進行していくと考える。 竜東地区の特色を大切する中で、山間地の学校が市街地の学校区より不利にならないような仕組みづくりの検討を進めていただきたい。施設分離型や一体型にせよ、今後中山間地域としては、送迎交通手段についても併せて検討していただきたい。 今後検討を進めるにあたって、現在の保護者、及びこれから保護者となる方々の意見を大事にしていきたいと考える。
千代	・これまで、学校、家庭、地域が一体となって取り組んできた特色ある教育活動の実績を踏まえて、学園構想という新たな枠組みの中で系統性や連続性を高めながら子供たちの力を育てていくことについては、賛成です。 ・しかしながら、竜東中学校区については各校の児童生徒数の減少が他の地区に比べても著しく、子供たちにとってより良い学びの環境をつくるのが難しくなっていくような状況が急速に進行していると考えます。このような状況から、竜東学園は、優先的に施設配置等を検討する学園として第2次方針、第3次方針についてできる限り早く示していく必要があると考えます。 ・検討を進めるにあたって、現在の保護者、及びこれから保護者となる方々の意見を大事にしていく必要があると考えます。
龍江	・学校は地域コミュニティの拠点であることから、学園の枠組み等、地域住民との意見交換を検討してほしい。 ・保育園児の保護者等将来的に関係する方の意見も取り入れて検討してほしい。 ・学園構想についてまだ聞いていない方や理解していない方が多いので、十分に周知をしてほしい。

地区名	意見
竜丘	竜丘地区では地域の人々が参加し、特色ある教育について小学校を中心に進めてきている。「小中一貫」を契機に、生徒たちのふるさと意識の醸成に資するように進めてもらいたい。
川路	・この方針案は、学校に行ける子どもを前提とした内容になっている。不登校の子ども(不登校として現在カウントされていない短時間だけ学校にいて帰る子どもを含む)に対する対応の記述がない。そのような子どもを拾い上げる内容を入れていただきたい。 ・子ども同士のトラブル・いじめ等で学校に行けなくなっている子どももいる。そうした特別の事情がある子どもに限って、例外的に校区を超えて他の学校に通えるような制度にしていきたい。
三穂	答申 意見なし 附帯意見 ○わかりやすい資料を作成した上で、地域や関係者と話し合いながら進められたい。 ○学園の人数が均等になるように調整されたい。 ○学園間で子どもの取り合いにならないように配慮されたい。 ○親の勤務先の近くの学園に行けるような柔軟的対応を検討されたい。 ○15年度までを見通すなら対象人口の推計をして示すことを検討されたい。
山本	・「特色ある教育」は山本小・伊賀良小で趣旨の異なったものでもおかしい。学校ごとに検討するのは特に先生方への負担が大きい。他校と色を変えなければいけなく大変だ。飯田市としての「特色ある教育」とは何かをまず示して欲しい。市として筋の通ったものを示し、それをもとに独自性を出せるような検討ができるようにして欲しい。 ・令和8年度に中学校の部活がなくなりクラブ化し、指導も地域主体となると聞く。ますます地域がかなり関わらなければならなくなる。この難しい問題を2年間で対応できるのか懸念がある。この方針案も2年という短期間で果たして間に合うのか。 ・各学校の距離が離れているなかで、ICTもあるだろうが、学園構想がうまくいくのか疑問。統合して同じ場所ならわかるが、それはそれでまた別の課題がある。 ・すでに旭中にも「特色ある教育」はあった。ただ、実施場所が伊賀良に偏っていた。山本地区、伊賀良地区ごとの一貫校という発想もある。中学校が小学校に関わるのに、それぞれが離れていて中学生が小学生の面倒を見るとか本当にできるのか。教員のなり手も少なく、地域も高齢化し人探しも大変。 ・地域として、この方針や部活の課題にどうかかわっていかなければならないか見えてこない。具体的な課題が見えてくると、地域にどういったお願いをしていくかなど意見も出しやすい。
伊賀良	意見なし。
鼎	原案のとおり承認。 但し、審議においては、委員から様々な観点で発言があり付帯意見として集約はなされなかったが、委員からの発言については、真摯に受け止め、今後の方針案に生かしてほしい。
上郷	意見なし

地区名	意見
上村	・上村地区においては、学校存続が地域の存続そのものと捉え、小規模校としての特色ある学校づくりを積極的に支援している。また、遠山地区の小中学校3校の合同学校運営協議会、南信濃地区と合同の学校のあり方検討会議を設置し、小中一貫校として遠山独自の学園構想について協議を進めてきた。少子化に伴う学校課題は待ったなしの状況であり、飯田市における学園構想の開始時期は確実に令和7年4月からとするよう決定されたい。 ・上村小学校の小規模特認校制度は、学園構想開始後も継続すると共に、遠山郷学園においては小中一貫9年間の枠組みとして、特認校制度を遠山中学校でも実施されるよう決定されたい。
南信濃	・南信濃地区においては、学校存続が地域の存続そのものと捉え、小規模校としての特色ある学校づくりを積極的に支援している。また、遠山地区の小中学校3校の合同学校運営協議会、上村地区と合同の学校のあり方検討会議「遠山郷学園会議」を設置し、小中一貫校として遠山独自の学園構想について協議を進めてきている。少子化に伴う学校課題は待ったなしの状況であり、飯田市における学園構想の開始時期は確実に令和7年4月からとするよう決定されたい。 ・遠山郷学園において小中一貫9年間の枠組みとして、現在上村小学校で実施している特認校制度を遠山中学校でも実施できるよう決定されたい。